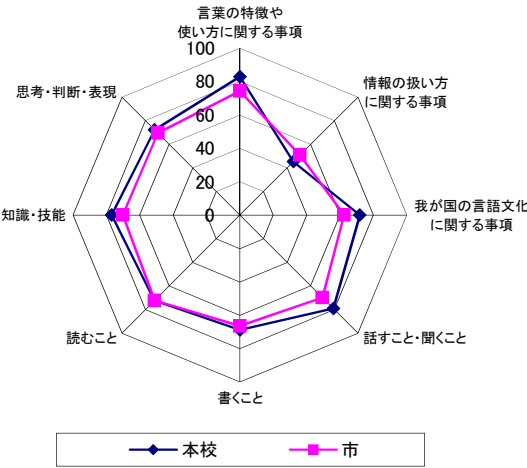


宇都宮市立海道小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	83.0	74.3	74.8
	情報の扱い方に関する事項	45.3	50.9	48.4
	我が国の言語文化に関する事項	71.9	62.4	60.8
	話すこと・聞くこと	79.2	69.9	69.7
	書くこと	68.8	66.4	64.6
	読むこと	72.4	72.3	71.0
観点別	知識・技能	76.8	70.1	70.0
	思考・判断・表現	72.3	69.5	68.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

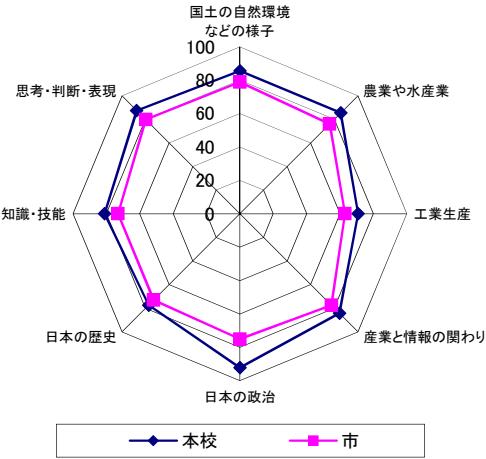
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	平均正答率は83.0%で、市の平均を8.7ポイント上回った。 ○熟語の成り立ちについて理解する問題の平均正答率は93.8%で、市の正答率を26.9ポイント上回った。 ●漢字を読む問題の平均正答率はほぼ100%だったが、5学年の配当漢字を書く問題では市の正答率を下回るものもあった。また、尊敬語の使い方を理解する問題では、市の正答率を19.4ポイント上回るものの、平均正答率は65.6%だった。	・漢字の読み書きでは、テストや自主学習において繰り返し復習させるとともに、現学年の配当漢字だけでなく、既習学年の内容についても定期的に復習を行うことで、定着を図る。また、熟語や同じ読みの漢字の使い分けについても意図的に振り返る機会を設け、基礎力を伸ばしていく。 ・尊敬語と謙譲語の違いについて復習し、相手や状況に応じた敬語の使い方を、日常生活の中で継続的に行うことにより、敬語について学ぶ機会を増やしていく。
情報の扱い方 に関する事項	平均正答率は45.3%で、市の平均を5.6ポイント下回った。 ●情報と情報との関係について理解し、目的に応じて文章を簡単にまとめて書く問題の平均正答率は15.6%で、市の正答率を10.9ポイント下回った。	・日頃から、新聞記事や図書資料、インターネットから得た情報などを授業の中で触れる機会を増やし、必要な情報を読み取ったり、自分の考えをまとめたりする学習を、意図的に取り入れる。
我が国の言語文化 に関する事項	平均正答率は71.9%で、市の平均を9.5ポイント上回った。 ○漢字の由来についての理解を問う問題の正答率は71.9%で、市の正答率を9.5ポイント上回った。	・引き続き、国語だけでなく、社会や道徳科、総合的な学習の時間、読書活動など学校教育全般を通して、日本の伝統や文化への興味関心を高めていく。 ・漢字や敬語など日本の言語文化について学習する際は、その由来や背景を捉えさせたり、生活と結び付けて考えさせたりすることで、知識・技能の定着を図っていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は79.2%で、市の平均を9.3ポイント上回った。 ○話し手の目的に応じて、話の内容を捉える問題では、100%と高い正答率だった。 ●計画的に話し合い、考えを広げるための工夫を捉える問題の正答率は81.3%で、市の正答率を4.8ポイント下回った。また、互いの立場や意図を明確にした計画的な話し合いを記述する問題では、市の正答率より30.9ポイント上回るものの、平均正答率は56.3%だった。	・引き続き、国語の授業だけでなく全教科で、対話的な学びを意図的に取り入れることにより、相手の考えをよく聞き、自分の考えを広げたり深めたりするように指導していく。 ・構成メモやスピーチメモを活用して、相手の立場や反論を予想したり、効果的な資料の提示の仕方を工夫したりして、話す内容や順番を計画する活動を充実させることで、分かりやすく説得力のある話し合いができるようようにする。
書くこと	平均正答率は68.8%で、市の平均を2.4ポイント上回った。 ○グラフから読み取った事実を書くことに関する問題の平均正答率は93.8%で、市の正答率を15.4ポイント上回った。 ●事実をもとに自分の意見を明確に書くことに関する問題の平均正答率は53.1%で、市の正答率を8.4ポイント下回った。	・引き続き、視写プリントや作文、日記指導など、日常的に書く機会を多く設け、書くことに対する苦手意識を減らすための指導を取り入れる。また、段落の構成を考えたり、目的に応じ簡潔に書き表す活動を実践したりするなど、様々な条件に対応した書く力を育てていくようにする。 ・事実と意見を区別して、自分の立場を明確にして書くことを意識させるようにする。
読むこと	平均正答率は72.4%で、市の平均と同等であった。 ○説明文の論の進め方を捉える問題の平均正答率は84.4%で、市の正答率を9.4ポイント上回った。 ●登場人物の心情について描写をもとに捉える問題の平均正答率は68.8%で、市の正答率を10.9ポイント下回った。	・物語文の単元では、登場人物の心情や場面描写を、文章表現と結び付けて深く読み取っていく活動を重視していく。 ・本校の特色である読書活動にさらに力を入れ、朝の読書の時間の確保や、物語や説明文も含め授業の教材文と同じジャンルの本の推奨など、多様な文章にふれる機会を設定していく。

宇都宮市立海道小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	85.6	78.9	75.4
	農業や水産業	85.4	76.1	71.2
	工業生産	70.8	62.9	59.4
	産業と情報の関わり	84.4	77.6	59.7
	日本の政治	92.2	75.0	79.3
	日本の歴史	77.3	73.1	72.8
観点別	知識・技能	81.1	73.0	71.4
	思考・判断・表現	87.5	79.8	71.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

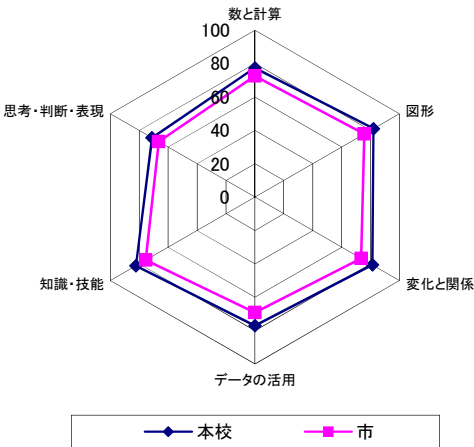
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は85.6%で、市の平均を6.7ポイント上回った。 ○日本の周辺の海洋名について理解する問題の正答率は96.9%で、市の正答率を9.6ポイント上回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・地図帳や学習プリント、AIDリルなどを用いて、繰り返し学習することで、日本の主な地形の名称と位置を理解し、地図を読み取ることができるようにしていく。
農業や水産業	平均正答率は85.4%で、市の平均を9.3ポイント上回った。 ●市の平均は上回っているものの、都道府県の位置を答える問題、複数の資料を読み取る問題の正答率が80%台など、課題が見られる設問もあった。	・米づくりのさかんな都道府県については、田植えや稲刈り、総合的な学習の時間と連携させて学習に取り組み、経験や他教科との関連を生かして知識を身に付けられるようにしていく。
工業生産	平均正答率は70.8%で、市の平均を7.9ポイント上回った。 ●大工場と中小工場の理解をもとに資料を読み取ることに課題が見られる。	・身の回りには、様々な工業製品があること、それらを作る工場にも規模や働く人の人数に特色があることを意識できるよう、日常生活の中で話題として取り上げるようにする。 ・ガソリン、原油価格についてのニュースを取り上げることで、様々な資源の輸入相手国について知る機会を増やしていく。
産業と情報の関わり	平均正答率は84.4%で、市の平均を6.8ポイント上回った。 ○インターネットを利用するときの注意点を答える問題の正答率は90.6%と、一人一台パソコンの利用に際して行った授業や、日常的な情報リテラシーの指導が身に付いてきていると考えられる。	・インターネットやポイントカードを利用する際の利点や注意点、マナーなど、日常的に情報リテラシーに触れることで、使える知識にしていく。
日本の政治	平均正答率は92.2%で、市の平均を17.2ポイント上回った。 ○日本国憲法の三原則、非核三原則、国会や裁判所の仕組みについての理解を示す問題では、どれも市の平均正答率を上回り、高い知識の定着がうかがえる。	・基礎・基本の学力が定着するよう、振り返る場面を計画的に設け、知識の定着を図るようにしていく。 ・国会や裁判所に関するニュース、時事の話題を取り上げることで、実感をもって学ぶことができるようにしていく。
日本の歴史	平均正答率は77.3%で、市の平均を4.2ポイント上回った。 ○弥生時代のむらの様子や人骨の資料に着目して、人々の暮らしを捉え、表現する問題では、市の平均正答率を上回った。 ●飛鳥時代の出来事を選択する問題では、市の平均正答率を下回った。	・出来事が起こった年だけではなく、その理由や背景を考えることで、思考力・判断力・表現力を育てるようにしていく。 ・基礎・基本の学力が定着するよう、振り返る場を計画的に設けて知識の構築を図るようにしていく。

宇都宮市立海道小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	77.4	72.6	73.1
	図形	82.0	75.7	74.7
	変化と関係	81.3	73.6	66.1
	データの活用	77.1	69.2	70.7
観点別	知識・技能	82.3	75.5	74.4
	思考・判断・表現	71.2	66.5	67.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

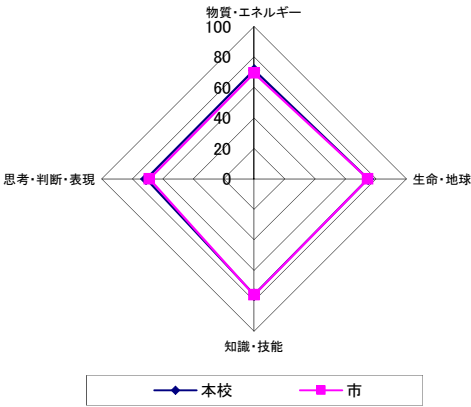
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は77.4%で、市の平均を4.8ポイント上回った。 ○小数や分数の計算問題の正答率は市の平均より高い項目が多い。文字の式の正答率も、市より9.1ポイント高い。 ●文章問題に合った図を見て、式を選ぶ問題において、市の平均より正答率が低く、図を用いて数量の関係を考えることに課題が見られる。	・基礎・基本事項について、今後も計算ドリルやAIドリル等を活用して繰り返し解いたり、既習の内容の復習を朝の学習や家庭学習の中で進んで行ったりして、学習内容の更なる定着を図るようにする。 ・授業の中で、問題を解決するためには「どのような方法で解けばよいのか」という見通しをもたせる場面や、数量の関係を図で表したり、図を読み取って式をつくって説明したりする場面を多く設定する。
図形	平均正答率は82%で、市の平均を6.3ポイント上回った。 ○高さが図形の外にある平行四辺形の面積を求める式を選ぶ問題では、正答率が84.4%で市の平均を15.8ポイント上回った。 ●線対称な図形の正六角形のある対角線を対象の軸と見たとき、ある点に対応する点を見つける問題では、正答率が46.9%で、市の平均を2ポイント下回った。	・身の回りの図形に関心をもたせ、日常生活と関連させながら、図形についての理解を深め、学習内容の定着に努める。 ・実際に具体物を操作しながら、対応する点を見つける活動などを取り入れて、線対称や点対称の性質の理解を深めさせる。
変化と関係	平均正答率は81.3%で、市の平均を7.7ポイント上回った。 ○表から面積と人数の割合を求め、どの公園が最も混んでいるかを考察する問題は、87.5%で市の平均を14.2ポイント上回った。 ●分速を秒速や時速に直し、速さの単位の関係を理解しているかを求める問題では、正答率が市の平均とほぼ同じであるが、56.3%と低い。	・速さなどの単位量当たりの大きさの意味や表し方についての理解を深め、日常生活の場面にあった問題等で見通しをもたせながら数直線や図を用いて考えたり、なぜそうなるのかが自分で説明したりする活動を取り入れながら定着を図っていく。
データの活用	平均正答率は77.1%で、市の平均を7.9ポイント上回った。 ○「平均・データの見方」の最頻値を読み取ったり、度数分布表を完成させたりする問題では、正答率が96.9%で市の平均よりも高い。 ●図や表を読み取って分かったことを説明する問題では、正答率が市の平均より1.5ポイント高い31.3%であったが、正しく理由を記述する力に課題が見られる。	・身の回りの事象について、目的に応じてデータを集めて分類、整理したり、データの特徴や傾向に着目し、平均値、中央値、最頻値などの代表値を用いて問題の結論について判断したりする活動を多く取り入れ、「データの見方」についての理解を深めていく。

宇都宮市立海道小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	71.4	69.3	65.7
	生命・地球	74.8	74.7	77.8
観点別	知識・技能	75.9	76.2	76.4
	思考・判断・表現	70.8	68.7	68.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、71.4%で市の平均を2.1ポイント上回った。 ○「ものの燃え方」「電流のはたらき」の問題について、どの問題も市の平均正答率を、それぞれの問題で5.6ポイント、9.4ポイント上回っており、学習の定着が図れている。 ●ふりこのきまりにおいて、ふりこの1往復する時間が一番短いふりこを指摘する問題では、市の平均正答率と比べると7.7ポイント低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・実験や観察時に使う用語や方法や操作など基礎・基本の定着を図るとともに、めあてに即した振り返りに力を入れ日常生活に活用できるような指導に努める。 ・課題のねらいや方法を正しく捉えさせ、自分の予想や仮説を立てさせる場を十分に取らせ実験・観察等に臨ませる。また、実験結果から自分なりの考えを導き出せるよう考察する時間の確保する。
生命・地球	平均正答率は、74.8%で市の平均とほぼ同じであった。 ○「天気の変化」の問題について、どの問題も市の平均正答率を上回っており、学習の定着が図れている。 ○「植物のつくりとはたらき」の問題について、日光が植物の生育に必要なことを、葉のでんぷんをつくるはたらきの観点から記述する問題では、市の平均正答率10.2ポイント上回った。 ●「動物のからだのつくりとはたらき」の問題について、石灰水を白濁させたのが呼気によることをたしかめるための対照実験を構想できる問題では、市の平均正答率を17.4ポイント下回った。	・実際の観察・実験が困難な単元や継続的な観察・実験が効果的な単元は、引き続き模型やICT等を活用し、より分かりやすい授業展開に努める。 ・観察・実験において、比較して行うねらいを明確にして実感を伴った学習活動を展開し、結果をもとに考察させ理解を深める。 ・今学習していることが、自分の生活に結びついているを意図的に振り返らせる場を設定し、科学的事象への興味・関心を高めたい。

宇都宮市立海道小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
定着を図るための学習活動の充実	単元及び授業の導入場面等で、前学年までの内容や既習事項を確認する機会を設定したり、視聴覚教材を効果的に取り入れるような学習活動を工夫したりすることで、学習内容の定着を図る。	6年生の算数及び社会、理科に関しては、どの領域も市の平均正答率を超えている。特に社会においては、第5学年の内容の正答率が全て市の平均より高い。他の3教科では、内容によって市の平均を下回るものもあった。 「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」については、高学年は市の平均を上回っている。「学習をして、いろいろなことが分かったりできるようになったりすることは楽しい」の肯定割合がどの学年もほぼ100%に近く導入や教材の工夫をしたことで意欲は高まったと言える。「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の肯定割合も、ほとんどの学年で市の平均を上回っていた。
授業の学び合い活動の充実に向けた工夫	協働的な学び合いを通して、他者の意見や考えに触れ、自分の考えを見直す活動を大切にすることで、深い学びの実現を図る。	「先生や友達の話最後まで聞くこと」については、どの学年も肯定割合が9割以上と高い。「話し合いに自分から進んで参加している」についても肯定割合が市の平均よりも高いが、学年によって差があった。また、「根拠をあげながら話すこと(3年以上)」については、ほとんどの学年が市の平均を下回っていた。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	「家庭学習の手引き」や「家庭学習記録カード」等を活用し、計画的に学習に取り組むよう働きかけをするとともに、個別指導により、家庭学習の充実を図る。	「宿題はきちんとやっている」の肯定割合は1年生が100%、2年生は94.3%であった。「自分で計画を立てて家庭学習に取り組んでいる」「授業で習ったことを、その日のうちに復習している」の肯定割合は、市の平均を大きく上回った学年もあるが、学年によって差があった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・国・県・市の調査結果から、6年生の「書くこと」については、4月からの向上が見られた。視写プリントや作文・日記指導等を継続してきたことにより、書くことに抵抗なく取り組むようになったと考えられる。しかし、文章から事実と意見を区別して読み取って、目的に応じて文章を書くことにどの学年も課題が見られるので、様々な条件に対応した書く力を育てていくようにする。今後もプリント等を活用し、目的をもって文章を書く機会を意図的に取り入れていく。

・「話すこと・聞くこと」についての平均正答率は、学年の差があった。今後、自分の考えや主張する機会を意識的に設けたり、他者の意見に理由を加えて話し合ったりする活動を取り入れることにより、表現力の育成を図っていく。また、自分の考えや思いを伝えたり、思考を整理して根拠立てて発表ができるようにしたりするためにICTの活用を図っていく。

・家庭学習について、「宿題をきちんとやっている」「自分で計画を立てて家庭学習に取り組んでいる」の肯定割合は市の平均を大きく上回っている学年が多く、本校で実施している家庭学習の取組みの成果が表れてきていると考えられる。学力の定着を図るために、今後も継続して宿題の内容を充実させたり、効果的な自主学習の取組についての例を提示したりするなどして、家庭と連携をしながら家庭学習の充実に努めていきたい。